

■生き物の棲みやすさ（底層DO）

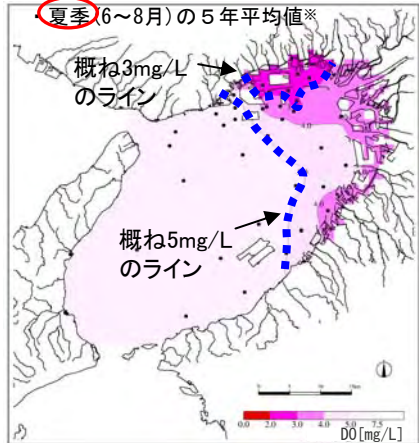
※DO(溶存酸素量)とは、水に溶け込んでいる酸素の量のことです。

【状況】

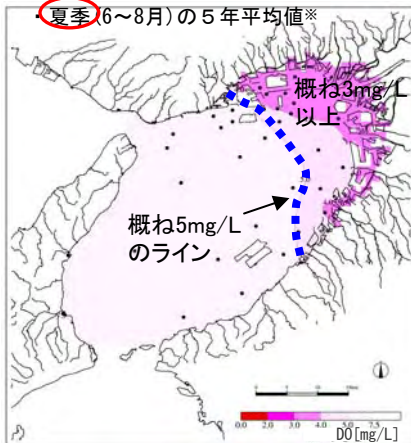
- ・夏季の底層DOについて再生行動計画前と現在の水平分布図を比較すると、目標の水質レベル“5mg/L以上”の範囲は概ね同様に分布しているものの、湾奥部の港湾区域周辺では、概ね、当面の目標“3mg/L以上”となっています。冬季については、海域全体で5mg/L以上となっています。
- ・夏季の海域・箇所別の経年変化を見ると、年による変動はみられるものの、A類型海域の全域及びB類型海域の神戸港沖(B-1)で若干の上昇傾向が窺えます。神戸港沖のB-1を除くB類型海域及びC類型海域では、ほぼ横ばいに推移している傾向です。

■水平分布図

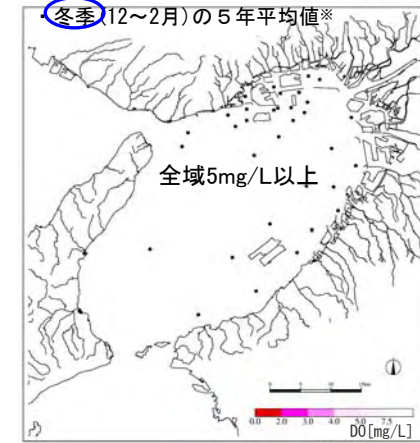
●再生行動計画前(平成11~15年度)



●現在(平成19~23年度)



●現在(平成19~23年度)

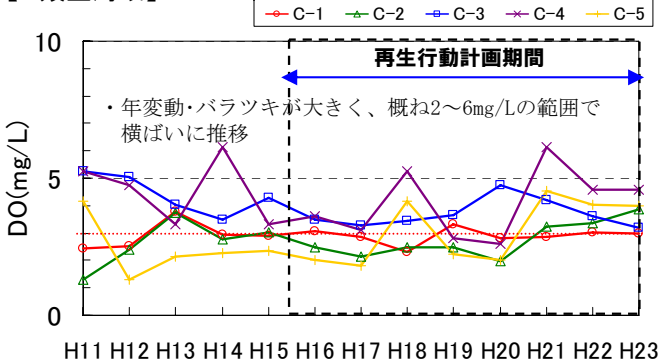


出典) 公共用水域水質測定結果

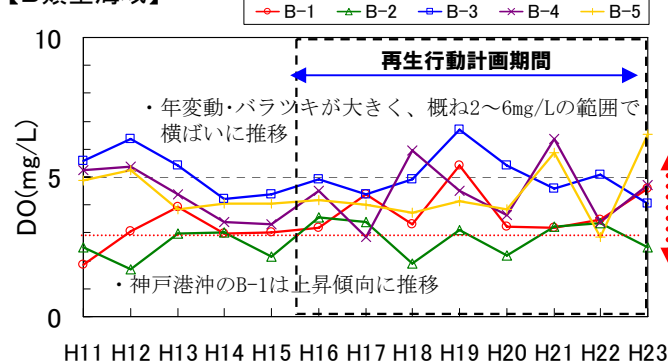
※水質データは年変動が大きいことから5年平均値を採用。水平分布図は限られた測定箇所の水質データを基に作成しており、水質分布の傾向を示したものです。

■夏季の海域・箇所別 経年変化

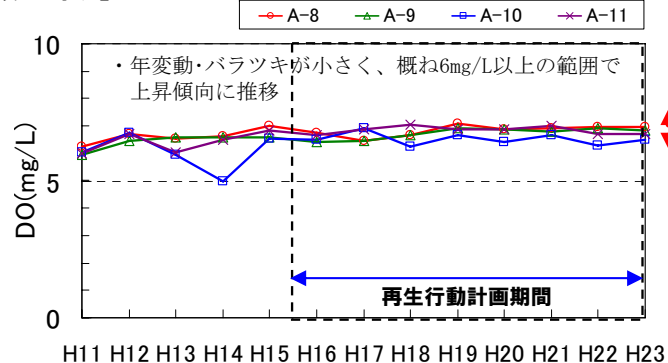
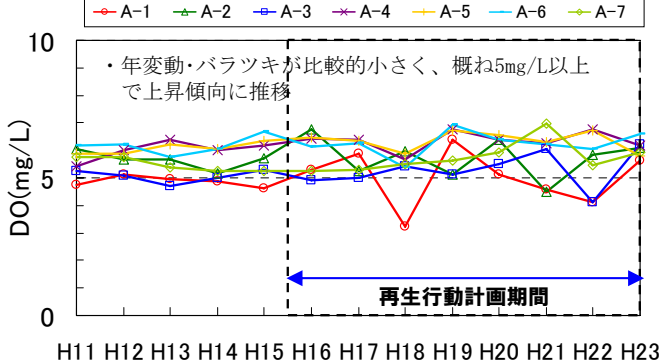
【C類型海域】



【B類型海域】



【A類型海域】



出典) 公共用水域水質測定結果

【評価】

- ・平成16~23年度までの期間(8年間)で、A類型海域で若干の改善傾向が見られますが、B・C類型海域では年変動が大きく、概ね横ばいで推移していると考えられます。
- ・8年程度の短期間では明確な水質改善効果の発現は難しく、引き続き施策を着実に実施していくことが重要と考えられます。